

大垣市教育委員会だより

はぐくみ

vol.25

発刊
令和6年
2月

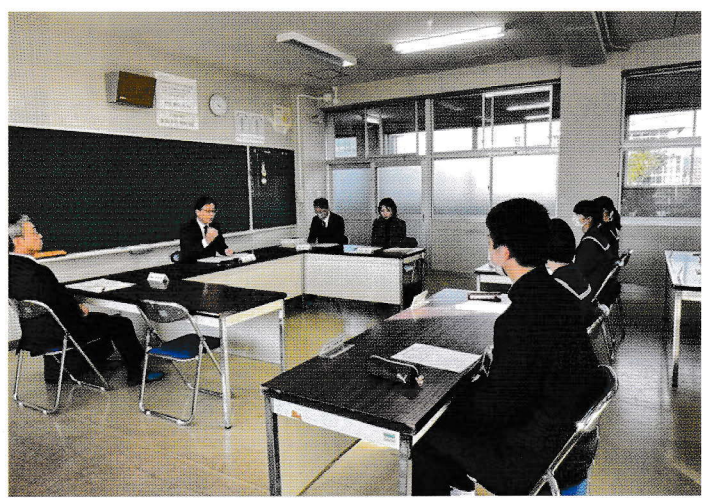
教育委員が「北中学校」へ学校訪問を行いました

12月20日(水)に教育委員が北中学校を訪問し、理科「宇宙を観る」、体育「跳び箱運動」、国語「聞き上手になろう」の授業見学を行うとともに、「休日の部活動地域移行」について、生徒の意見を聞きました。

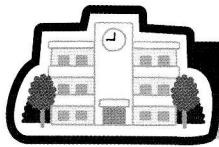
授業見学では、教育委員から、「タブレットも活用しながら実物の半球体を使用しており、とても分かりやすい。」「跳び箱を飛ぶ前に念入りに準備運動をしており、寒い時期で、よりケガの心配があるため対策をしっかりとられていた。」「社会に出ても相手の話を聞き出す力、聞き手・話し手の意図を汲む力は必要だが、相手の目を見て真剣に話を聞き取っていた。」などの意見がありました。



地域移行について生徒からは、「吹奏楽部は、広い場所と楽器が必要であり、楽器を用意するにはものすごい金額が必要になる。また、学校以外でやると毎回トラックを出して楽器を積んで移動するという手間がかかってしまう。」「バドミントンは練習できる環境が限られている。学校の体育館を現在の部活動と同じように使っていただきたい。」「遠い場所になると移動に時間がかかり、練習時間が少なくなってしまう。」「中学生になって新しくやってみようと思い部活に入る人も、他校へ行って部活をするとなると入部しづらい環境になってしまう。」「平日も地域移行すると、保護者が見つからなくてはいけなくなり、仕事など都合がつきにくいので、平日の部活動は残してほしい。」「地域移行となると地域の方の協力も必要だし、忙しい中、保護者にも時間をつくっていただく必要があるので、全体の理解が必要だと思う。」などの意見がありました。



今後も、学校訪問を通して教育現場の状況等を把握し、教育行政の充実に努めて参ります。



学校

江口夜詩^{よし}作曲校歌(上石津町4小学校)保存事業を実施しました

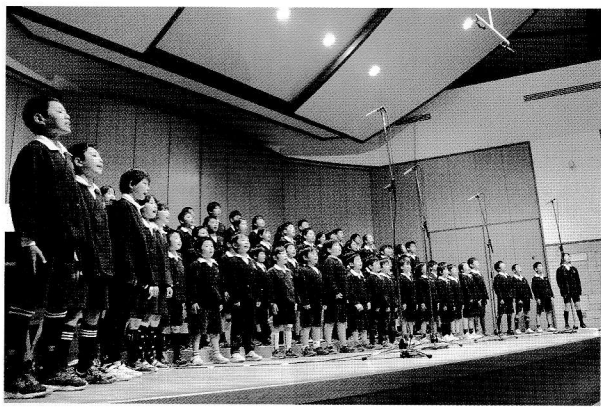
令和5年度末に統合が予定されている上石津地内4小学校の校歌(作曲:江口夜詩)を保存するため、各校児童により合唱する様子を収録しました。

郷土出身の偉大な作曲家である江口夜詩の生誕120周年を祝い、その功績を再認識し、郷土への愛着を深め、彼の歌を未来に歌い継ぐために、江口夜詩生誕120周年記念事業として、令和5年10月30日(月)に日本昭和音楽村 江口夜詩記念館 水嶺湖ホールで実施しました。

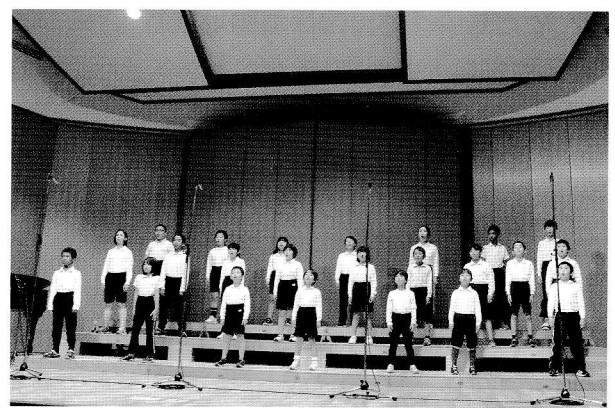
児童たちは、初めて見る本格的な録音機器やカメラに初めは緊張した様子でしたが、リハーサルで緊張がほぐれ、本番ではのびのび歌っている姿が印象的でした。

収録した動画は、令和6年3月(予定)に、日本昭和音楽村公式YouTubeチャンネルで公開します。

日本昭和音楽村
公式YouTube
チャンネル



大垣市立牧田小学校



大垣市立一之瀬小学校



大垣市立多良小学校



大垣市立時小学校



江口夜詩

江口夜詩(1903年生まれ)は、大垣市上石津町出身の作曲家です。「憧れのハワイ航路」、「赤いランプの終列車」、「瓢箪ブギ」など数々のヒット曲を生み出し、上石津地内4小学校を含む、大垣市内外の校歌や、社歌、町民歌、地域の音頭なども数多く作曲し、生涯にわたる作曲数は4,000曲を超え、「大衆音楽の父」として讃えられています。



図書館

図書館を利用しませんか

図書館は誰もが気軽に利用できる施設です

皆さんは最近、図書館を利用されましたか？図書館にはどんなイメージをお持ちですか？「難しい学術書ばかりで自分が読めるような本はない」などと思われていませんか？

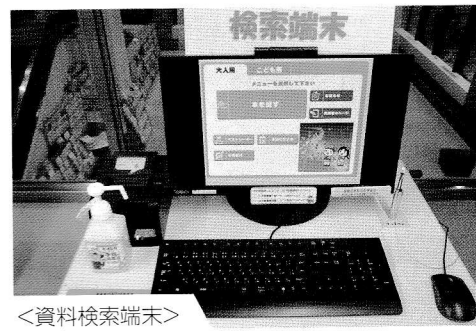
図書館には、小説をはじめ、実用書やビジネス書、児童書など様々なジャンルの本が約46万冊あります。ほかにも新聞や雑誌、郷土資料、福祉資料、視聴覚資料など、幅広い世代やニーズにお応えできる図書や資料を各種取り揃えています。

子ども向けの本を集めた児童閲覧室には、児童書や絵本、紙芝居などが多数あり、絵本の読み聞かせなども実施していますので、親子でお楽しみいただけます。

館内には、簡単に操作ができるセルフ貸出端末や資料検索端末、図書除菌機などを設置しているほか、自習ができる学習室やパソコン利用席を設置しており、無料のWi-Fiも利用可能となっています。



<児童閲覧室>



<資料検索端末>

本の貸出以外にも

子どもや親子を対象とした事業や、一般の方を対象とした各種講座やイベントなど、様々な事業を実施しています。講座は、より多くの方に気軽に受講していただけるよう、オンラインを併用した形で開催しています。

子どもや親子を対象とした主な事業

- ブックスタート(4か月健診時に絵本を手渡し、読み聞かせを行います)
- おひざでだっこ(乳幼児のためのおはなし会)
- おはなし会(季節に合わせた絵本の朗読など)

一般の方を対象とした講座など

- 歴史講座(古文書講座、学ぶ大垣講座)
- 文学講座
- 読書講演会
- 館内展示(郷土資料の企画展など)
- リサイクルフェア(雑誌等の無償配布)

こんなサービスもあります(図書館の便利な利用方法)

来館いただくなくてもご利用いただけるサービスや、スマートフォンを活用したサービスなども実施しています。

予約図書配本サービス

お近くの市民サービスセンターや地区センターなどへ予約した本や資料をお届けするサービス
(※事前登録が必要)

電子図書館サービス

図書館のホームページから郷土資料と、(株)アルファポリス提供の児童絵本が閲覧できるサービス



電子図書館HP

図書返却ポスト

大垣駅北市民サービスセンターに設置した図書返却ポストに、市図書館で借りた本を返却できるサービス

図書館デジタル利用カードシステム

スマートフォンの画面に利用カードのバーコードを表示し、利用カードとして使用できるサービス

詳しくは、大垣市立図書館(TEL 78-2622)、
上石津図書館(TEL 45-3118)、墨俣図書館(TEL 84-3814)へ。





給食

「全国学校給食週間」パネル展を開催しました

1月24日から30日までの7日間、市役所1階の多目的スペースで『「全国学校給食週間」パネル展』を開催しました。

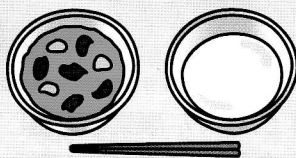
学校給食の起源は、明治22(1889)年にさかのぼります。山形県鶴岡町(現在は鶴岡市)の大督寺というお寺の中にあった小学校で、お弁当を持ってくることができない子どもたちに昼食を無償で提供したことが始まりとされています。その後、全国へ広まりましたが、戦争による食料不足などの影響で中断されてしまいました。戦争が終わっても食料不足は続き、子どもたちの栄養状態が心配され、外国からの援助によって給食が再開されました。

昭和21(1946)年12月24日に物資の贈呈式が行われ、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、冬休みと重なるため、1月24日～30日までを「全国学校給食週間」とすることが定められました。

学校給食は、「学校給食法」に基づき、教育活動の一環として実施されています。成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のため、栄養バランスのとれた食事を提供するとともに、望ましい食習慣と食に関する実践力を身につけさせるための重要な教材としての役割も担っています。

今回開催しました、「全国学校給食週間」パネル展では、そういった学校給食の意義や役割について、子どもたちや保護者はもとより、市民の方の理解を深め、関心を高めるため、学校給食の歴史を年表にしたパネルや、学校給食が始まったころの年代別の学校給食レプリカのほか調理器具、調理服、食器や食缶などの展示を行いました。

昭和 22 年ごろの給食

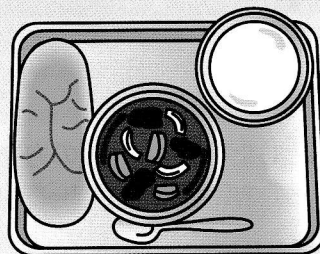


トマトシチュー・ミルク

脱脂粉乳や缶詰などの物資を使って給食が作られました。



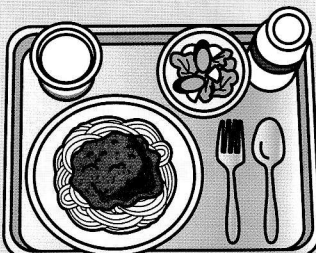
昭和 25 年ごろの給食



コッペパン・ミルク・カレーシチュー

アメリカから寄贈された小麦粉を使って、パン・ミルク・おかずの完全給食が始まりました。

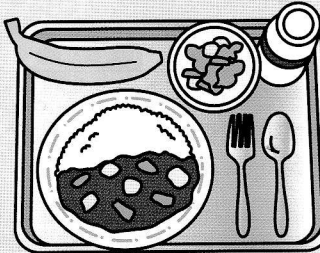
昭和 40 年代ごろの給食



ミートスパゲッティ・牛乳・フレンチサラダ・プリン

パンの種類が増え、めん類も提供されるようになりました。脱脂粉乳のミルクは牛乳へと切り替わりました。

昭和 50 年代ごろの給食



カレーライス・牛乳・塩もみ・バナナ

給食の主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯が正式に導入され、献立の内容も豊かになっていきました。